

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症であっても地域の中で尊厳を持ってあたりまえの暮らしが出来るという事を柱に支援している。地域の人がいいつでも出入りできるホームづくりを大切にしている。	○	商店街等買い物に出かけたりして交流ができてきている。地域の人達も気兼ねなく来れる様に取り組みたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の中で話し合いや確認がまだまだ不十分。	○	理念についてはミーティング等で、意識づけをはかり、日々のサービスの提供場面では関わりの振り返り、理念を掘り下げて具体的なケアについて意見の統一に向け取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へは面会時や年2回ある家族会で説明している。見学者や地域の方へは、口頭、広報誌で説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	定期的買い物に出かけたりし、挨拶したりしている。近隣の保育園の散歩コースになり声かけしたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回、自治会主催の地域清掃に参加している。今年は地域の青年会の方たちのエイサーの慰問、交流が出来た。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者様、家族様へは、認知症高齢者の心理、日常生活の様子等、残存機能など話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の中で話し合いや確認がまだまだ不十分。	○	評価の意義、目的を全職員に伝えサービスの質の向上に努め、外部評価の結果を踏まえ改善に向け実践につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催し行事、現状報告や改善策、ご意見を伺い今後のサービス向上を図っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回のこもれびそば屋の開催で関係部署の職員が食事に来られたり市町村の方の見学場所として活用してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学習会に参加したり、法人として教育研修委員会があり参加している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の表情や皮膚状態など細かに観察している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書も十分に説明し利用者様の状態の変化事業所としての取り組み等の説明を行い理解を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の面会時にご意見やご要望を聞くようにしている。又ご意見箱を設置し法人として、苦情処理委員会がありご意見など各事業所間にて共有している。苦情などは、広報誌にも掲載し、対応策や改善点なども記載し、公表している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の生活の状況は、面会時や電話にて報告している。こもれび便りを7月に発行したが、情報提供が十分ではない。	○	定期的に個別に各個人の生活の様子や健康状態等、便りなどで毎月提供していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会にて、ご意見などを伺っている。運営推進会議でも、ご家族からの意見が出やすいよう配慮している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、その他の会合にてあがった意見、要望を地域密着型事業部での会議に提案し、管理者会議にもスムーズに上げられる体制をつくっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状態の変化に応じた勤務体制を作っている。又職員の急な休みなど法人から応援体制ができています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人材育成の面から併設施設との定期人事異動があるが影響が少なくすむように、認知症への、理解のある方、チームワークの取れる人材を優先にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育研修委員や法人内の研究発表会などへの参加し内外の研修を受講している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加する等、他グループホームの施設見学や職員の交流もある。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員の表情や言動など観察しながら他の部署、職種の職員との交流、親睦の場を作ったり、気分転換を図れる機会を作っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に訪問し利用者様や職員の様子を把握している。職員の資格取得に向けた支援をおこなっている。取得後は活用できるように配慮されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人との話し合いを持ちながら生活状況、精神状況の把握に努めている。本人の求めていることに対して理解するようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族様からこれまでのサービスの状況、苦勞してきた事等ゆっくり聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所としてできる限りを説明し、本人やご家族の思い、状況等を確認し、他の事業所のサービスにつなげる等の対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、ご家族に見学してもらうことから始め、雰囲気から慣れってもらうなどしている。ご家族から在宅での様子など情報を伺い精神的、身体状態に合わせた対応を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の会話の中から得意な事、興味をひくことを理解するようにし、本人の得意な豆腐作り、そば作りなど教えていただきながら、作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の病院受診は、ご家族様が基本的に行うようにし、主治医との連携が図れるようにしている。職員も現状を面会や電話で伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の様子や本人の隠された能力、良い点を分かっていたり支援している。天気の良い日には外出を勧めたりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室にお連れしたり、親戚や家族同士がホームを中心にして訪れるようになってきている。落ち着いて交流が出来るように環境作りをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	難聴の方へは、職員が間に入り会話を進めるよう支援している。その日の活動や席、場所まで配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、本人にも落ち着いて過ごさせるよう又継続的なに來られるように遊びに來てもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、言葉や表情などで、把握に努めている。疎通困難な方には生活暦などご家族から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの、サービスの利用、生活暦の情報をご家族より伺い、把握できない時は、本人や知人、親戚などプライバシーに配慮しながら聞ける範囲で努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の行動、表情、動きなどから日々の生活のリズムを把握し出来ることに視点を置きながらその人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族も一緒に現状に視点にあて本人の個別のプランが出来るよう努力している。ご家族が参加出来ない場合は、希望、要望など取り入れ、その人らしい形で作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回は、評価を行い、見直しをしている。利用者の状態の変化、状況、家族、本人の要望に応じて見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個別にファイルを作成しプラン実践記録、気づきを個別記録に記入し、朝の申し送りやカンファレンス等に情報の共有をしながらプランの評価、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室を利用しショートステイなど、本人、ご家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご家族、親戚などとの協力体制はできている。定期的に地域のサークルの訪問(ボランティア)と共に支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、ご家族の必要に応じて、主治医相談の元他のサービスの利用するための検討している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し周辺情報や支援に関し情報交換、協力関係が出来ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、ご家族と共に病院受診されている、身体状態の変化や気になることがあるときには、受診同行したり、電話や文書で連絡したり、受診後は情報提供書をいただいている。		

沖縄県(グループホーム こもれび)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携協力病院の医師との連携や協力体制が出来ている。診断情報や認知症についての指示や助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃の健康管理や医療面での相談、助言やご家族への病状の説明をしたり、介護職員との連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先医療機関に訪問し情報を提供したり頻繁に職員がお見舞いに行くことにしている。またご家族とも情報交換しながら回復状況、退院後の相談に備えて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その時々本人、ご家族の意向を確認しながら日頃の健康管理や急変時の対応できるよう職員間で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を踏まえ事業所として出来ること、出来ないことへの見極めを行いご家族への説明を行っている。ご家族間でも今後の変化に備えて話し合うよう助言している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活環境、支援内容等、情報交換を行いなじみの職員が機会を作って訪問などしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	カルテや記録は個々に保管し個人情報には細心の注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その人の思いを受け入れるように、行動を制止するのではなく、付添いしながら自主性、主体性が出るように、色々な事に声かけし、本人の表情を見ながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ買い物やドライブを実施している。散歩等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族の協力で本人のなじみの美容室を利用されている方もいる。化粧品を準備し朝の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。不十分なところや乱れはさりげなく直している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒にテーブルで同じ物を食事している。食事の仕込み(皮をむいたり、)盛り付け、食事の配膳を手伝ったりを職員と共にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ティータイム等で本人の好きな物を選ぶようにしている。天気の良い日には気分転換を兼ね外出し楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、時間を見計ってさりげなくトイレに誘導している。トイレで排泄できるよう支援している。下着に尿とりパットのみ使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の望む時間に入浴していただいている。基本的に同性介護。 本人の希望により、足浴も実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中眠気が見られる方には、前夜の睡眠状態を確認し、生活のリズム作りを整えよう努めている。夜間は、就寝に向け明かりの工夫や環境整備等気持ちよく安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の仕込み、盛り付け、洗濯物干し、たたみ等を職員と一緒に試みて、自らすすんで取り組み事を促し、経験を活かす発揮できる場面を作っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方が少なく、買い物の際お金を渡し、自分の好きな物の購入を促している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じてもらえるよう、散歩、ドライブ、買い物など戸外へ出る機会を作っている。また利用者様の、自宅訪問も実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大型スーパーでのおやつタイムや家族と一緒にのみかん狩り、花見等家族と共に出かける機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけたいときには、かけられるよう、支援している。本人がかけることができない時は、相手が電話に出た後代わったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間等、定めておらず、仕事帰りやご家族の都合のいい時間にいつでも訪問できるようにしている。本人と訪問者が、ゆっくり過ごしてもらえるよう椅子やお茶など用意している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り等で身体拘束しないケアの実践に向け共通認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることなく、ご家族の方、地域の方が自由に入出入り出来るようにしている。利用者様のそれぞれの散歩コースを把握し職員と一緒に出たりしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間常に利用者様を見守りが出来る場所に居よう努め、場所を離れる時は、他の職員に声かけし、引継ぎでいる。夜間は1時間ごとに利用者様の様子や所在を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状況に合わせて、保管管理が必要なものは扉のある場所に保管している。危険な物品は野外の物置に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書の記録、報告義務があり一人一人に合った再発事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の連絡体制マニュアルは整備されている、救急救命の講習会や法人の勉強会へ参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、消火器の使い方、夜間想定避難、通報訓練など実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族との話し合いで、本人が体調の変化をきたす前に、起こり得るリスクを話し合ったり、面会時や電話で伝えたりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から、表情、食欲、バイタル等変化がない観察し異変が生じた場合は、速やかにご家族に連絡したり、医療機関につなげたりしている。受診時には、変化時の記録を渡している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の目的、副作用、用量、用法の処方箋は、個人ファイルに整理し職員が内容を把握できるようにしている。処方内容や用量が変更されたときには、状態観察を行い申し送り等で情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中適度な運動、散歩や水分、オリゴ糖、乳製品、繊維質の多い食材を採り入れて、自然に排便が出来るように配慮している。必要であれば、医療機関へつなげている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけしながら自力で出来るよう、職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前には義歯は洗浄剤に浸けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎日チェックしている。(必要な方は水分摂取量) 病状により、主治医の指示、管理栄養士に専門的アドバイスを受けている。一人ひとりの嗜好を把握し献立に採り入れながら栄養バランスに配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防防止マニュアルを作成されている。職員で情報の共有し予防対策に努めている。食事前や、外出先から戻った時などは手洗いを意識づけている。また職員が媒介にならないように予防接種を全員受けている。利用者様も毎年インフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎日漂白している。食器等はその都度高温乾燥にて衛生を保っている。台所の水周りなど清潔に努めている。新鮮な食材を使用するため、2日～3日おきに買出ししている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に利用者様が生けた生け花を置いたりし、季節感をだしたりしている。チャイムや表札を付けたたりし家庭的な雰囲気を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的温かさを感じられるよう、木製の家具など多用している。落ち着いた、明るく清潔感のある空間づくりに職員意識している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子を置いたり、庭先にはベンチを設置したり一人でも他の利用者様ともくつろげる居場所づくりをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の状態に合ったベッドの位置を配慮している。居室には使い慣れている馴染みの物を傍に配置する等、ご家族へは使い慣れている日用品の持ち込みを声かけし、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、朝、夕に適宜に行っている。冷暖房の温度の調整は季節に合わせ、利用者様の様子を見ながら調整している。浴室、トイレは常に換気扇をつけ、匂いや湿気を防止している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から建物内部へは、段差がなく工夫されている。利用者様に合わせてテーブルやイスを使用し、いろいろな活動、作業が安全に安楽に出来るように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日々の様子観察で、職員間でのミーティング、ケースカンファレンス等で混乱になっている要因を分析し速やかに改善できるよう支援している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横や、庭先にベンチを設置し外気浴や、休憩ができるようにしている。利用者様同士や職員との寄り添う場所として落ち着ける場所としている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム こもれび)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)